

会 議 録

1 会議名

平成 26 年度第 2 回上越市子ども・子育て会議

2 議題（全て公開）

- (1) 子ども・子育て支援事業計画の骨子及びニーズ調査結果について
- (2) 上越市子ども未来応援プランについて
- (3) その他

3 開催日時

平成 26 年 6 月 3 日（火）午後 1 時 30 分から

4 開催場所

上越市教育プラザ 研修棟 3 階大会議室

5 傍聴人の数

1 人

6 非公開の理由

なし

7 出席した者（傍聴人を除く。）氏名（敬称略）

・ 委 員：高島会長、吉澤副会長、山口委員、大嶋委員、猪俣委員、吉田委員、品川委員、長島委員、柳澤委員、安田委員、坪井委員、石田委員、仁田委員、中條委員、北澤委員、板垣委員、岩井委員、佐藤委員、柳委員

・ 事務局：健康福祉部長

こども課長、堀川副課長、白石副課長、橋本係長、西山係長、風間主事
健康づくり推進課長、男女共同参画推進センター長、
産業振興課 小田副課長、教育総務課長、学校教育課 宮下副課長、
生涯学習推進課長

8 発言の内容

* 会長、副会長選任

事務局：丸山委員（前会長）の辞任に伴い、吉澤委員の就任。併せて会長、副会長の選任について事務局案（会長に高島委員、副会長に吉澤委員）を提案したところ、委員全員が承認。

(1) 子ども・子育て支援事業計画の骨子及びニーズ調査結果について

事務局（こども課長）：(資料1、2により説明。)

岩井委員：地域自治区ごとにニーズ調査の回収率に違いがあるが理由はあるか。また、地域自治区によって傾向に違いはあるか。

板垣委員：今回のニーズ調査の回収率は、低いようだが妥当な数字か。

こども課長：ニーズ調査は、対象者数に隔たりがないよう人口比率で按分して実施し、結果として地域自治区ごとに回収率が異なっている。また、地域自治区ごとの傾向については、今後、教育・保育提供区域を検討する際にさらに分析を進めるが、全市的には高田区や直江津区等にニーズが高い傾向がある。市が行った他のアンケートでは、4割程度という結果もあるので、今回のニーズ調査の回収率53.5%は高い方である。

高島会長：大学のアンケートでは、回収率は3割程度であった。

岩井委員：子ども・子育て支援新制度は、区域を設定して、その中で施設やサービスの需給計画を作るとのことで、待機児童が多い都市部向けの制度のように感じるが、上越市ではどのようにとらえているか。

こども課長：13区は、旧町村単位となっているため、その区域の中で教育・保育等の需給バランスは取れていると思われる。合併前上越市は、一区域にした場合に全体的な傾向は把握できるが、どこに施設を設置するのが効果的なのかを考える際には、一定の区域で設定する必要があると考える。まずは、地域自治区単位とする区域で需給バランスの検討を行っていく。

(2) 上越市子ども未来応援プランについて

事務局（風間）：(資料3、4、5により説明。)

佐藤委員：子育てひろばの達成状況の根拠を知りたい。また、こどもセンターの利用者数は子どもと保護者の人数の合計したものか。また、一日平均利用者数を知りたい。

こども課長：子育てひろばの達成状況の根拠については、相談業務の記録からみえる傾向や対応状況などから判断した。こどもセンターの利用者数は、子どもと保護者の合計人数で、一日平均利用者数は約300人となっている。

高島会長：事業によって目標が人数であったり回数であったりするが、どのように整理しているか。

こども課長：ご指摘のとおり、事業内容に目標がそぐわないものは見直しを行う。

柳 委 員：昨年、双子を出産したが、子どもは小さかったため入院をし、私自身も体調が優れない時期があった。そういった状況でも、行政の支援を受けるには、利用希望者からの申し出が基本となるが、申請手続きなど大変に苦勞をした。今後、病院と連携し、行政の事務手続きを代行するコーディネーター制度などの検討をお願いしたい。また、保育園の入園に関して、双子など優先的に入園できるようにしてほしい。

こども課長：保育園の入園は、双子などに限らず、可能な限り保護者の希望に添って行っている。今後も年度当初、年度途中に関わらず、希望に添えるよう行っていく。

健康づくり推進課（外立）：現在、保護者の同意の上、病院から入院の状況等について情報提供をもらい、保健師や助産師による訪問を行っている。退院後の支援としては、産前産後ヘルパー派遣事業があるが、多胎児の場合は利用期間を延長して対応している。

北 澤 委 員：今後、放課後児童クラブの設置予定はあるか。

学校教育課（宮下）：今年度、新たに高士小学校区で長期休業期間のみだが、開設を予定している。これを含めると全市で開設していないのが諏訪小学校区のみとなるが、次年度以降、開設するかどうか検討する。

安 田 委 員：子ども未来応援プランの評価を諮るものとして、子育てに不安感や負担感を感じる人の割合等を聞いているが、私は子育て中の保護者はほぼ全員が負担感を感じていると思う。計画の評価を諮る指標にはそぐわないのではないか。

こども課長：今後子ども・子育て支援事業計画を策定する際は、ご指摘いただいた意見を参考に評価の指標を設定する。

（3）その他

事務局（こども課長）：（資料6により、子ども・子育て支援事業計画の策定スケジュールを説明。

9 問合せ先

健康福祉部こども課企画係 TEL : 025-526-5111 (内線 1221)

E-mail : kodomo@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料もあわせてご覧ください。